



WWF ジャパン
(世界自然保護基金)

早稲田大学高等学院
環境プロジェクト



WWF・TRAFFIC スタッフと記念撮影をする
早稲田大学高等学院 環境プロジェクトのみなさん

今年は「ワシントン条約締約国会議」の年!

2016年は、「第17回ワシントン条約締約国会議」が開催される年です。

私たちの暮らしにも、実は関係の深いこの条約をテーマに、WWFジャパンが特別研修を主催、早稲田大学高等学院の皆さんが参加しました。

ワシントン条約とは?

「〇〇空港で、密輸の象牙を押収」といったニュースを聞いたことがありますか? ゾウの牙は、工芸品の原料や富の象徴として高値で取引されます。象牙をとるためにたくさんのゾウが殺され、多くの国で絶滅の危機にひんすることとなりました。

ワシントン条約(英語での略称は「CITES」)は、こうした問題を防ぐために、人間の利用によって大きな影響を受けている野生生物を対象に、その国際取引を規制する条約です。

トラフィックの活動

現在、ワシントン条約で規制されている生きものは、動物が約5,600種、植物が約30,000種。しかし、こうした生きものが密猟・密輸される事件も起きています。そこでWWF(世界自然保護基金)は、IUCN(国際自然保護連合)と共同で「トラフィック」という機関を設立。野生生物の



取引の状況を常にモニタリングし、過剰な取引から野生生物を守るための活動をしています。

センザンコウ ©Meg Gawler / WWF

さまざまな動物が議題に

2016年は、2~3年おきに開催される「ワシントン条約締約国会議」の年にあたることから、WWFの特別研修では、トラフィックのスタッフが、会議でどのようなことが話し合われるかを中心にレクチャーをおこないました。

アフリカゾウやライオン、サメやエイ、そしてセンザンコウという聞き慣れない生きものまで、さまざまな動物が議題にあがっていることが解説されました。

「遠い世界の話」ではない

ペット用に売られている爬虫類や鳥類、観賞魚の中にも、ワシントン条約の対象種がいます。また、「蒲焼き」が人気のウナギも、個体数の減少や違法取引が問題になっています。私たちの暮らしにとって、ワシントン条約は決して「遠い世界の話」ではないのです。

野生生物を、絶滅させることなく利用していくための解決策の一つとして、ワシントン条約への関心が高まることを、WWFとトラフィックは願っています。

感想

早稲田大学高等学院
環境プロジェクト

(環境活動に取り組む有志グループ)



土屋大輔さん(3年)

今回、背景と現実を知り、事態は想像以上に厳しく、ショックでした。自分の出来ることを行動していきたいです。



室井利彦さん(3年)

世界中の動物事情について学びました。最も印象的だったのは、日本人の生活や日本の生態系についても大きな影響があることです。



今村友輝さん(3年)

ワシントン条約において規制されている種には、ウナギや虎などといった我々の極めて身近な生物も含まれていたことが衝撃的だった。



大野拓実さん(2年)

希少種であることで価格が上がり、富裕層が自分の財力を示すために購入するという「負の連鎖」を断ち切るための条約がCITESなのだと感じた。



小野谷拓真さん(2年)

行き過ぎた商業取引によって野生生物を絶滅させない。かけがえない生物を守る意義を考えさせられました。



安藤宝仁さん(1年)

野生生物の個体数など、知らないことが多くあることに気づかされました。今後、気にしていきたいです。

WWFの活動をぜひご支援ください

WWFは100カ国以上で活動する地球環境保全団体です。その活動はすべて皆さまからのご寄付や募金で成り立っています。ぜひ世界の自然保護に力を貸してください。



私たちはWWFです
人と自然が調和して生きられる未来をめざして、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

www.wwf.or.jp